

DAFTAR ISI

HALAMAN JUDUL	i
HALAMAN PENGESAHAN	ii
HALAMAN PERNYATAAN ORISINALITAS	iii
PERNYATAAN PUBLIKASI SKRIPSI	iv
KATA PENGANTAR	v
DAFTAR ISI	vi
DAFTAR GAMBAR	viii
DAFTAR LAMPIRAN	ix
BAB I PENDAHULUAN	1
1.1 Latar belakang Penelitian.....	1
1.2 Rumusan Masalah.....	6
1.3 Tujuan penelitian.....	6
1.4 Pendekatan dan Metode Penelitian.....	6
1.5 Sistematika Penulisan.....	8
BAB II SUMO DI JEPANG	9
2.1 Sejarah Sumo.....	9
2.2 Kehidupan Pesumo Di Jepang.....	12
2.3 Turnamen Sumo Di Jepang.....	16
2.4 Peringkat Sumo.....	24
2.5 Kehidupan Pesumo Modern.....	29
2.6 Generasi Pesumo Sulit Ditemukan.....	32
BAB III ANALISIS PENYEBAB MENURUNNYA MINAT MENJADI PESUMO MENURUT MASYARAKAT JEPANG	34
3.1 Sumo Bukan Olahraga yang Menarik.....	35
3.2 Sumo Bukan Merupakan Pekerjaan yang Menarik.....	47
3.3 Kehidupan Keras Pesumo.....	54
3.4 Kesehatan Seorang Pesumo.....	58
3.5 Minat dan Ketertarikan Terhadap Sumo.....	63
BAB IV KESIMPULAN	80
DAFTAR PUSTAKA	85

LAMPIRAN	xi
SINOPSIS	x
RIWAYAT HIDUP PENULIS	xxi

DAFTAR GAMBAR

Gambar 1.1 <i>Dohyo</i>	12
Gambar 1.2 <i>Ryogoku Kokugikan</i>	19
Gambar 1.3 Ritual <i>Dohyo iri</i>	21
Gambar 1.4 Grafik minat anak-anak Jepang terhadap olahraga.....	35

DAFTAR LAMPIRAN

Lampiran 1 Jumlah Pesumo (Kelas <i>makunouchi</i> pada bulan Januari) dan Jumlah Pesumo (Kelas <i>Juryo</i> pada bulan Januari).....	6
Lampiran 2 Jumlah Pesumo.....	6
Lampiran 3 Tingkatan Pesumo.....	25
Lampiran 4 Dokumen Daftar Peringkat Pesumo Profesional (<i>Banzuke</i>).....	27
Lampiran 5 Angket Sumo.....	37

日本人の「相撲選手になる興味が減少する原因」

アリンカ ヌライニ

0942012



マラナタキリスト教大学

文学部

日本文化学校

バンドン

2013

序論

相撲は太っている2人の選手が押し合うスポーツであり、一人が土俵の中から押し出されてしまうか、足の裏以外の体の部分が土俵の地面と接触し、一人が倒されると負けとなよスポーツである。日本の文化にて、相撲は習慣と儀式であり、神道の歴史の一部でもある。

力士は普通試合をする時、まわしを締める。「まわし」は江戸時代の特別な相撲選手のパンツである。相撲選手はきれいな、「化粧まわし」という堂々とした模様があるまわしを締め、競技を行う。現在、化粧まわしは大会のオープニングに土俵の上で相撲選手がパレードをする時のみ締めてあるものになった。

土俵は円形の競技場である。土俵の聖なる範囲は神道の教えで純粹さの印である為、一般の人が入ってはいけないところである。相撲の競技場は神道の神社の様に、釣り屋根という屋根を持っている。その釣り屋根の四つの隅にて日本の四季を表す大きい縄状のものが垂れている。日本の相撲大会のレフェリーは行司と言われ、伝統的な衣服を着る神道の司祭に似ている。

競技が始まる前に、相撲選手が実施する儀式と倫理があり、そのひとつは土俵入りという競技場に入る儀式である。最低の階級に続きもっと上の階級が入ってくる順番で相撲選手が次々競技場に呼ばれる。

本論

土俵の上に、右側と左側に露払いと太刀持ちが付く横綱は西側にしゃがみ、東に向く。その後、横綱は手を伸ばし、大きな音で手を打ち合わせる。

最高の階級がある相撲選手が発表されてから、相撲選手たちは行司を中心にし、円を作り、その後の儀式を続け、自分達の着替え部屋に戻り式や終わる。

1年に6回の

本場所（グランドトーナメント）という大きな大会がある。このグランドトーナメントは東京で3回で、1月、5月と9月で開催され、大阪で3月、名古屋に7月と福岡に11月に1回ずつ実施される。各大会の期間は15日間であり、日曜日から初め、次の日曜日で終える。相撲のトーナメントの雰囲気は町の祭りと似ており、両国国技館の周りで相撲選手が日本人の特別の下駄と浴衣を着用することが見られる。

相撲選手は6つの階級で区分される。最も高い階級より幕内、十両、幕下、三段目、序二段、序の口がいる。幕内は更に5階級に分けられる。最も低い階級から前頭、小結、関脇、大関と最も高い位である横綱がいる。横綱若しくは総合優勝者はトーナメントに常に登場する相撲の選手であり、トーナメントの最後に最高の階級の決勝戦の優勝者である。最高の階級の相撲の選手すなわち幕内と十両は関取という栄光のタイトルを給与され、関取のみ給料をもらうことができる。

現在、相撲選手として成功する外国人の相撲選手が日本出身の相撲選手より多くいる。今年の横綱は日馬富士と白鵬、モンゴル出身の相撲選手である。2013年の最新のデータによると、幕内の大会に参加する外国人がいるという情報がある。その中に、モンゴル、エストニア、ブルガリア、ブラジル、グルジアとロシアの出身の相撲選手がいる。

逆に、相撲の世界は日本人にとって面白くなくなり、相撲選手になる興味が減ってくる。2012年に九州の相撲道場にてあまり嬉しくない記録があった。道場に入る前、相撲選手になる診断を受ける人は1人しかなかった。今年の相撲の弟子は最終的には56人のみであり、すなわち若乃花のブームの時の223人弟子がいたに比べ、最少の記録であった。この様に、2012年の人数は4分の1であり、すなわち55人ぐらいであった。

日本の出生率が低くなり、より格好良いと考えられるサッカー、野球やバスケットボール等近代のスポーツの大流行に伴い、現在若い相撲選手がなかなか見られない。35人の日本人の男性に配ったアンケートの結果によれば相撲選手になる興味が少ないのは、日本人の若者は相撲が若者の中に流行していなく、高齢の人の方が相撲が好きであると考えている為である。

結論

相撲が現在流行しなくても日本人の若者は相撲が伝統的文化であり、自慢できる国のスポーツであるという強い印象がある。相撲の発展を見届けてなくても、現在の相撲の世界を治める横綱が誰であることがまだ認識している。これは横綱を知っていることは常識であると考えられているであろう。

日本人の若い男の人は相撲の選手の生活が厳しく、面倒であることと思いき、相撲の選手になるより、自分になりたい職業を選択する。相撲の選手は皆が追いかける種類の職業ではない。相撲の選手になるのは不安定な職業

であり、未来に不安がある職業でもある。その上、相撲の選手になる為に若い内に相撲の道場に入らないといけない。つまり、中学校を卒業する時である。毎日の練習が厳しく、通常で生活できない為、相撲の選手を職業にするのは難しい。相撲選手の最初の給料は150,000円であり、安すぎると思われる。その上、関取階級の相撲の選手月給をもらうことができる為、相撲の選手が月給をもらうのはなかなか難しいと思われる。

日本人の若者が相撲の選手を職業にすることに対する興味が低い他の理由は相撲の選手の体が非常に太っていると思われ、アイドルとして格好良いという印象が無い。アイドルの印象がある対象は若者に人気があるサッカーか野球の選手である。その上、相撲選手の大きい体は自分の健康に悪い影響があると思われている。